

2021年度通期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

日時 : 2022年5月12日（木）16時00分～17時00分
当社出席者： 代表取締役社長 佐藤敏彦、常務取締役 古川敏之、常務取締役 大治良高

主な質疑応答：

【全体】

- Q) 2022年度予想において、部材コストなど費用の上昇をどの程度織り込んでいるのか。
- A) 固定費については、広告宣伝費は時計事業の売上高に応じてコントロールしている。人件費、その他経費についても2年間抑制し続けてきたこともあり、事業活動の正常化を進める中で増える方向。部材、エネルギーコストの上昇については、現時点で見込める範囲を織り込んでいる。

【時計事業】

- Q) 時計事業の2022年度予想について。
- A) 2021年度は北米市場が想定を大きく上回り、大きく伸長した。ここまでの伸び率を維持することは難しいが引き続き増収を見込んでいる。欧州市場もリスク要因を抱えながらも堅調さを保つ見通し。国内市場も回復基調。中国市場は上期までは厳しい想定。ムーブメント販売については微増収を見込んでいる。
- Q) 中国市場の状況について。
- A) サプライチェーンについては、一部で往来の制限が出ている状況もあるが、混乱は出ていない。一方で、販売面においては、上海や北京などで実施されたロックダウンの影響が大きくなっている。

【工作機械事業】

- Q) 2022年度予想において部材調達難やコスト増の影響をどの程度織り込んでいるのか。
- A) 部材調達難の影響からリードタイムが長期化しており、生産対応が難しくなっている。また、部材だけでなく輸送コストも増加している。それらの影響により、2022年度予想は小幅な増収増益を見込んでいる。
- Q) 今後の受注動向について。
- A) 当面は高水準の受注が継続すると見ているが、今後の変化は注視していきたい。

以上